

福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

 神奈川県小田原市飯田岡二五七
 電話 0465(36)2755

お寺に望むことは何ですか？

今更何を言っているのかと思いになるかも知れませんが、四十数年住職をしてきて、一般社会の人々のお寺に対する思いが、ここ数年で今までとからり違ってきているように感じられるからであります。

今までならご先祖様の供養をすること、仏教の教えを広めること、地域の情報発信の中心であること、等々を念頭に活動すれば良いかと思っていたのですが、最近若い人達を中心にどうもしっくりしない部分があるように感じられてならないのです。

かといって今の若い人達がお寺に

興味が無いわけではありません。仏像のお話や高僧のお話など良く聴いてくれます。観光寺院は人で溢れていますし、歴女や朱印女子等お寺を巡り歩く若い人も大勢居られます。

一方で、「無縁社会」到来と云われるように、かつて人が生涯を送った「血縁関係」(家族・一族に囲まれた生活)や「地縁社会」(地域の人々に囲まれた生活)は薄らぎ、社会環境の変化により、核家族、個人生活を余儀なくし、また好んでして来ました。社会環境の変化、家族構成の変化により、葬儀も変化するのは当然で今や家族葬が当たり前になり、

法事の参列者も随分と少なくなってきたのが現状です。少子高齢化が拍車をかけているのは当然であります。

社会情勢の変化によりお寺との関わり方も多岐にわたり、それぞれの思い、求めに応じて対応していくことの重要性も感じているところであります。

ただ一つ檀信徒の皆様には維持して欲しいものがあります。それは「信仰心」であります。宗教心といっても仏心といっても良いでしょう。

神仏に対する畏怖の念、自分のいのちの大切さ、他人のいのちの大切さ、いのちは一つであることを常に忘れないでいて欲しいと思います。

ここまで読んで、自分には「信仰心」など無いから…と思っている人がほとんどだと思えます。しかし、それはどうでしょう。ただ自分の信仰心に気がついていないだけではないでしょうか。信仰心は全ての人が必要持っているものです。自分の信仰心に気がつくか気がつかないかだけのことに思いますが……。

住職は団塊世代



「団塊世代」とは戦後の第一次ベビーブームである昭和二十二年、二十三年、二十四年に生まれた人達のことである。年間出生率がそれぞれ二百六十七万、二百六十八万、二百六十九万人と、平成二十七年の百万人に比べると圧倒的な多さである。堺屋太一さんの小説から命名されたものだが、小説になるくらい特異な人達なのだろうか？

実は住職は昭和二十三年生まれで正真正銘の団塊世代の一人である。最近、同世代の集まりが、退職して時間的余裕があるのか、古い先の短さを感じてか多くなつた。自分史を出版して人生を振り返り整理する人もあり、団塊世代の一人であることを時々思うことが多くなつた。少子高齢化や二〇二五年問題といわれる後期高齢者増加社会の到来など全て団塊世代（以後我々という）が

原因である。こう書くと社会に迷惑をかけてがかりいる塊のようだし、そもそも生まれてからして皮肉にも戦争、終戦があつての誕生であると思つたと尚更のことであり、複雑な思いになるのは歪めない。食糧難、受験戦争に代表される競争社会、学生運動、高度経済社会、バブル経済、その崩壊、核家族社会、地域格差社会、等々戦後日本の歴史で、その中心的役割を担ってきたのも我々である。しかし功罪を比べればはるかに功が勝っていることは確かであると思つるのは私だけか？

同世代のことは同世代の者が一番良く理解出来るものである。

団塊世代の人が人生を振り返つた時、良い時代に生きたな一と思つている人が多いと思います。四十歳の頃、昭和から平成に時代が移りますが、青壮年気を昭和という夢と希望に溢

れた時代を過ごすことができたことに由来するのだと思います。いずれにしろ戦後日本の社会形成に大きな影響を与え、推進役を担つて来たのも事実だと思ひます。

さて、住職の立場になつて考えた時、宗教的に我々の世代はどうなのかと思つわけですが、決して良き宗教人とはいえないと思ひます。戦後教育の欠陥として、義務教育から一切の宗教を抹殺した教育を受けた我々は、人間にとつて如何に宗教が大切なものか知らずに育ちました。大人になつて初めて触れたいかがわしい宗教に免疫力の無い心身が蝕まれてしまった例も沢山あります。唯一、家庭での宗教が心境宗教であつたなら、盲目的にその心境宗教を信じて、他の宗教を排除するという歪んだ信仰心に陥つてしまう人もいます。その他の多くは七十近くになつて宗教心や信仰心の無い自分に気がつき、どの様に宗教と関わつたらいいのか戸惑つているのが現実であると思ひます。

同世代である団塊世代の皆さん、

一緒に宗教について語りませんか？ 競争社会を生き抜いてきた私達ではありませんか。親の面倒を見た人お疲れ様でした。見れなかった人社会構造の犠牲にもなりましたね。子供達には何に不自由なく育て独立させてきました。世話になろうと思わず、高齢夫婦世帯になるのも甘んじて受け止めましょう。そんな私達です人生を閉じるときは安らかに終えましょうよ。その為にも少し宗教心、信仰心に触れてみませんか？

団塊世代の住職が待ってまゝです。



帝釈天坐像 1 軀 木像彩色
承和6年(839) 国堂
像高 101.1 cm

師資相承しし そうじょうということ

本山東寺では毎年十二月に修行を終えた若い新米の僧に対し、阿闍梨(正式な僧侶)になるための伝法灌頂(でんぼうかんじょう)という儀式を執り行います。長くて辛い修行は、この最後の試験の様な伝法灌頂に入壇するために行うようなものです。

この伝法灌頂は東寺境内の灌頂院という、お大師様が灌頂を行うために建てた道場で執行されます。暗闇の中、わずかな灯火に照らされた荘厳された堂内で、厳粛に肅々と夜を徹して行われます。灌頂の中心をなすものは、法を授ける伝戒阿闍梨(師)から法を受ける弟子(子)に直接対峙して受け継がれる法そのものであります。千二百年の間変わらず、師僧から弟子に直接受け継がれて今日に至っているわけであり、このことを「師子相承」と云っています。

伝法灌頂の大事なところは、法が人から人へ一対一で受け継がれていくところだと思えます。

ネット社会の今日、情報は瞬時に世界中に伝達する事が出来ます。しかしネットでは伝達できないものが「法」であると思えます。紙と筆し伝達手段がなかった千二百年前、このネット社会を予測したかのように師子相承という伝達手段を唯一とし、それをかたくなに守り通して来た密教の先達に頭の下がる思いでいっばいです。

仏法はすげからく人から人へ、相對の世界であると思えます。仏法に限らず本来人間社会は人と人が相對し、それが幾重にも積み重なって出来上っているものだと思います。基本は一対一の間関係でしょう。

師子相承は現代社会への警鐘ではないでしょうか。

護摩供養会



(申込み受付中)

二月八日午後三時より修業

一昨年より新年厄除け護摩を一月遅らせ、二月八日の午後三時より変更させていただきました。正月八日は住職が本山に向かなければなりませんが、また、節分過ぎを新年と考え、新年薬師護摩供養として適切な日を設定させて頂きました。時間も午後三時からと、就学生も参加できる時間に変更いたしましたのでよろしくご諒承いただきますようお願い申し上げます。

記

期日・二月八日、午後三時より

祈祷料・三千円

祈祷内容・厄難消除(厄除け)、

身体健全、病魔退散、家内安全、

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

学業成就、合格祈願、安産祈願、

子授け祈願、その他

申込み・一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755

FAX 0465(37) 6688

平成二十九年 厄年

男性

前厄 昭和五十二年生まれ

本厄 昭和五十一年生まれ

後厄 昭和五十年生まれ

女性(大厄)

前厄 昭和六十一年生まれ

本厄 昭和六十年生まれ

後厄 昭和五十九年生まれ

仏教相談

誰でも気軽にどうぞ

勿論檀家さん以外の方でも

仏事に関して、

どうしたらよいのか?

どんな些細なことでも

ご相談下さい。勿論無料。

電話0465(36)2755

福田寺

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より1時まで、住職により新年のご祈祷が修法されます。自由に参加ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。